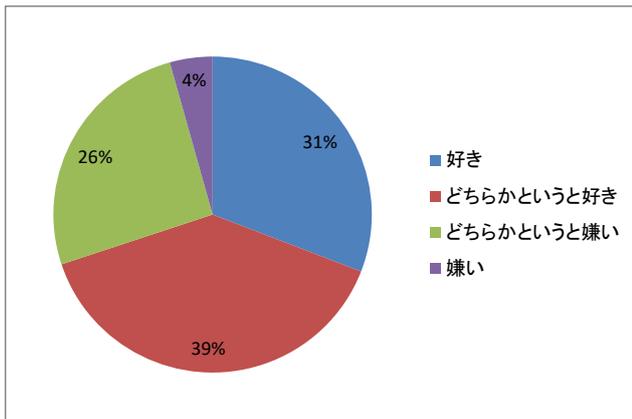


R3年度 子ども読書アンケート結果 グラフ(保護者) 回答者数392名

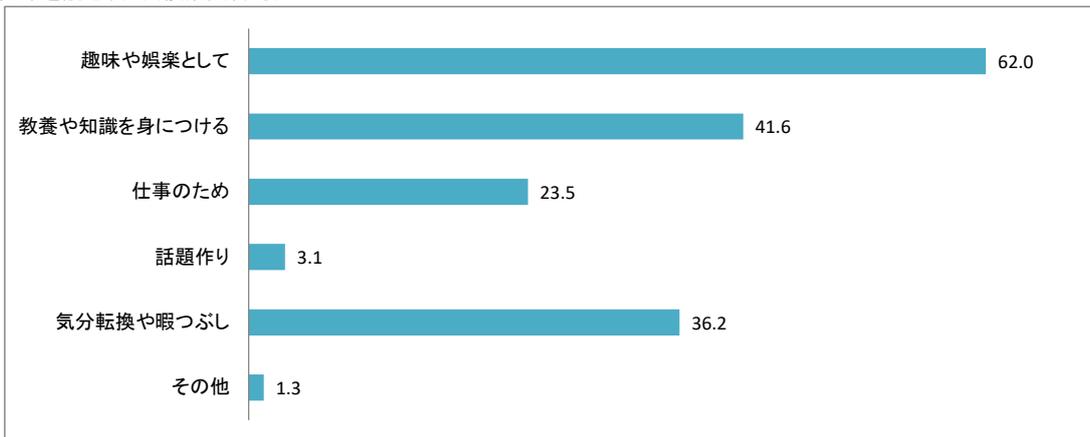
問1.読書が好きかどうか。



〈考察〉

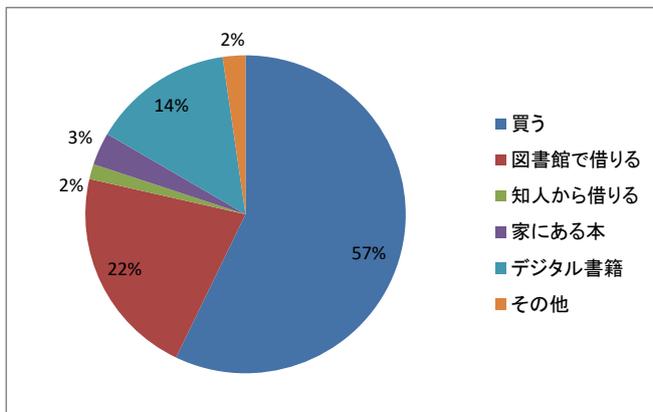
読書が好きかどうかでは、「好き」、「どちらかという好き」を合わせると70%で、大人も読書好きの人が多く分かる。しかし、30%が「嫌い」、「どちらかという嫌い」と答えており、好き嫌いの差が大きいことがうかがえる。

問2.本を読む目的(複数回答可)



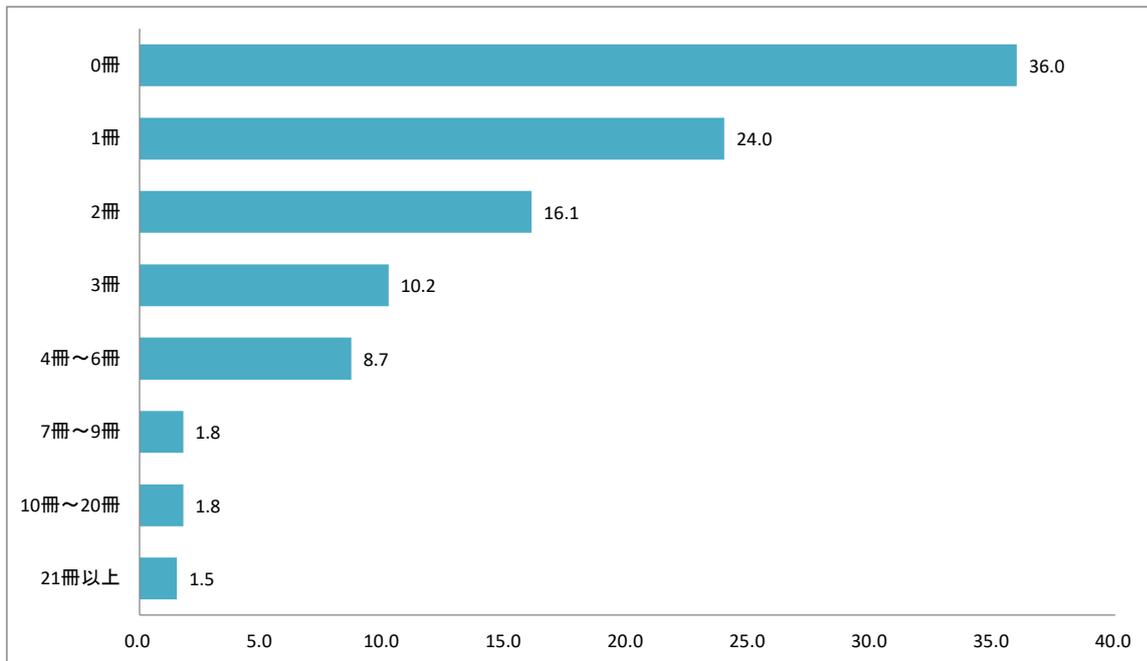
〈考察〉 本を読む目的としては、「趣味や娯楽」が多く、次に「教養や知識を身につける」、「気分転換や暇つぶし」となっており、子どもと同様に、自分の娯楽のための読書ということがうかがえる。また、「仕事のため」は23%程度で、本の活用は低い傾向にある。

問3.本の入手方法



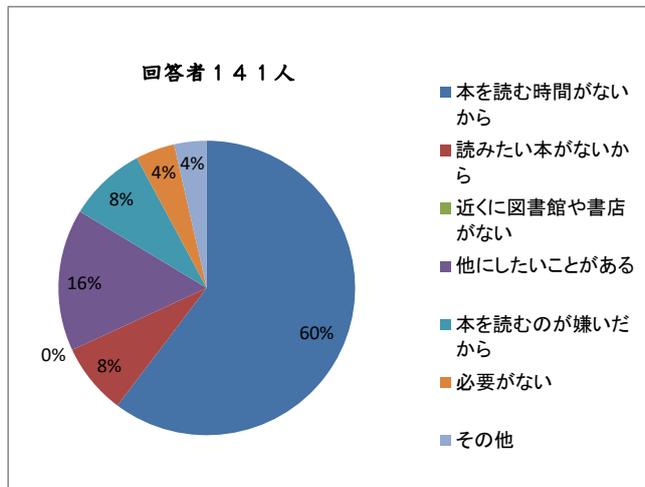
〈考察〉 本の入手方法では、「買う」が57%で多く、記述回答から本屋やインターネットを利用して購入している。図書館利用も多く、親子で図書館に行っている姿が見られる。地域の図書館が身近になっている様子がうかがえる。

問4.1か月に読んだ本の冊数(令和3年11月)



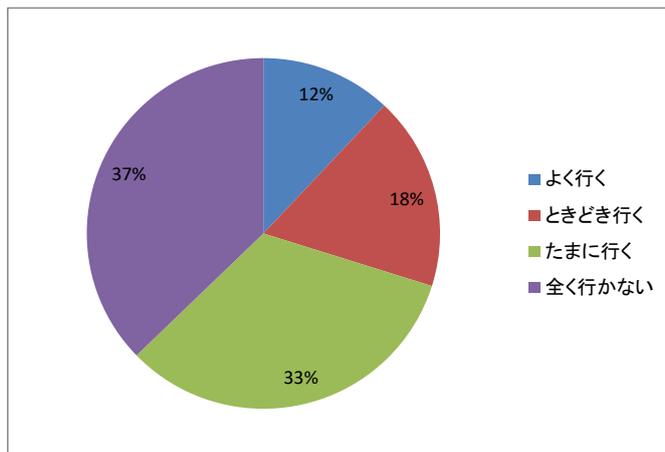
〈考察〉 1か月の読書量は、半数の人が0～1冊と答えており、1冊読めればよい方である。一方で、10冊以上の割合は低いが、少数いるので、読む人と読まない人の差が大きいことがうかがえる。

問5.本を読まない理由(問4で「0冊」と回答した者のみ)



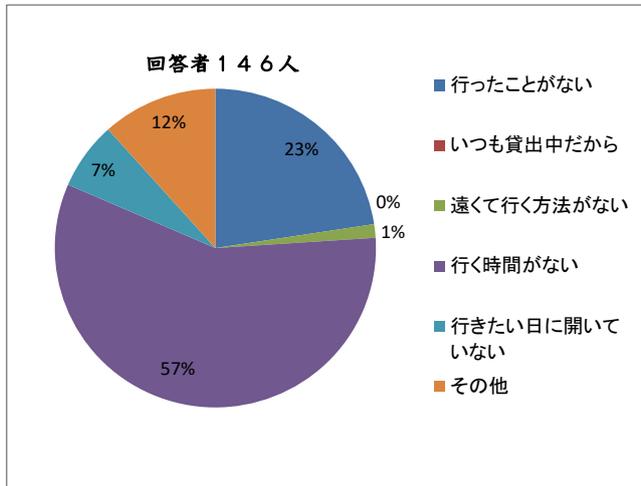
〈考察〉 全く本を読まなかった理由として、「本を読む時間がない」の割合が60%で多く、多忙な様子がうかがえる。また、「本を読むのが嫌いだから」の割合は8%であり、読書に対する関心の差が大きいことがうかがえる。

問6.地域の図書館へ行きますか。



〈考察〉 地域の図書館に行く頻度は、「よく行く」、「ときどき行く」、「たまに行く」を合わせると63%の保護者が利用していることになり、大人一人でも多く利用している。また、「全く行かない」が37%あることから、図書館利用を促す必要があると考えられる。

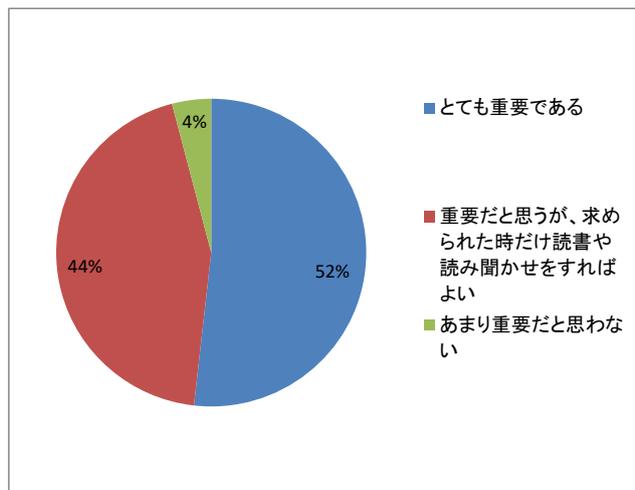
問7.行かない理由(問6で「全く行かない」と回答した者のみ)



<考察>

「全く行かない」理由としては、「行く時間がない」が57%と多く、多忙さに加え、図書館への関心のなさがうかがえる。「行ったことがない」は23%で、図書館利用だけでなく、本または文字に興味をもってもらう必要がある。

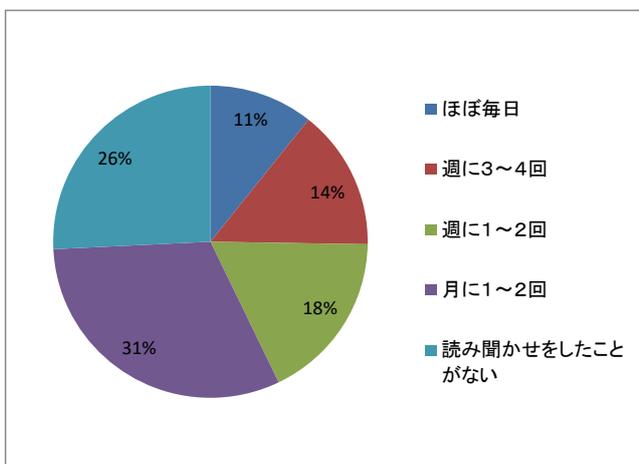
問8.子どもの読書活動について



<考察>

子どもの読書活動について重要性を感じている保護者は、96%で、多くの保護者が読書の重要性を感じている。しかし、「あまり重要だと思わない」は4%あることから、このような保護者に対する意識改革が必要である。

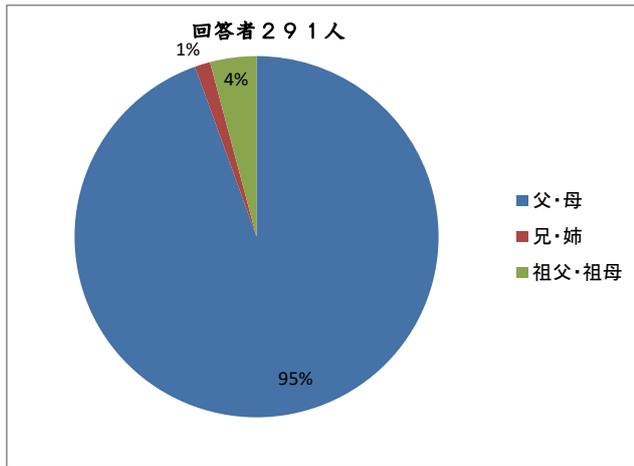
問9.家庭での読み聞かせの割合



<考察>

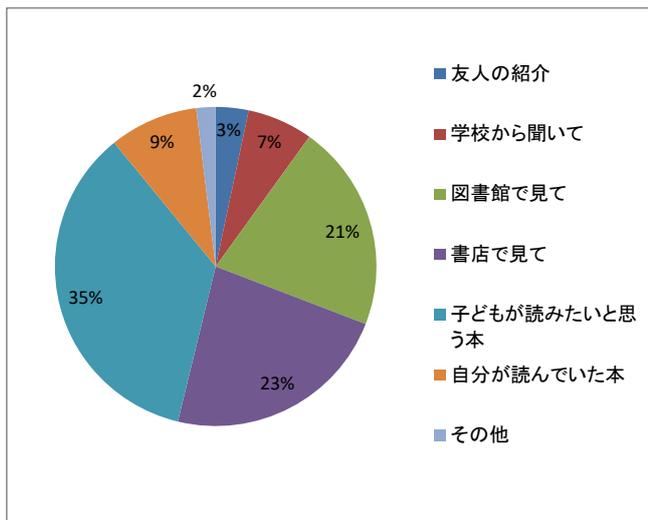
家庭での読み聞かせについて、「月に1~2回」が31%と多く、低学年での読み聞かせをしていた家庭が多い。しかし、「読み聞かせをしたことがない」が26%あり、読み聞かせに関心をもっている家庭とそうでない家庭との差が見られる。

問10.家庭で読み聞かせをする人は、どなたか？(問9で、1～4と回答した者のみ)



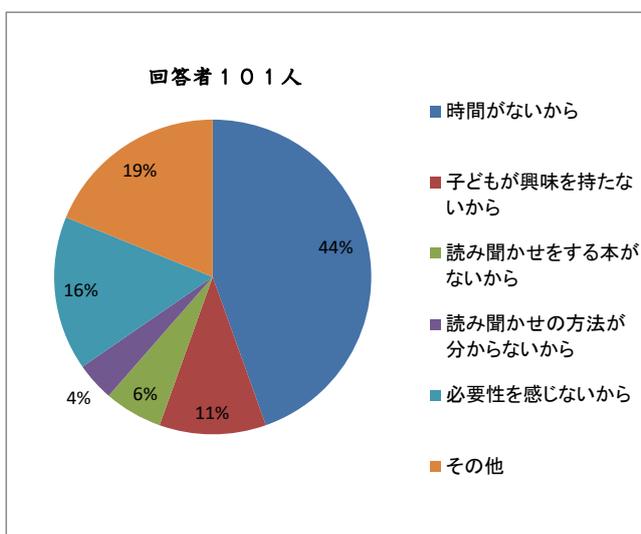
〈考察〉
家庭での読み聞かせをする人は、圧倒的に「父・母」が多く、家庭によっては「祖父・祖母」の活躍も見られる。

問11.子どもの本をどのようにして選んでいますか(複数回答可)



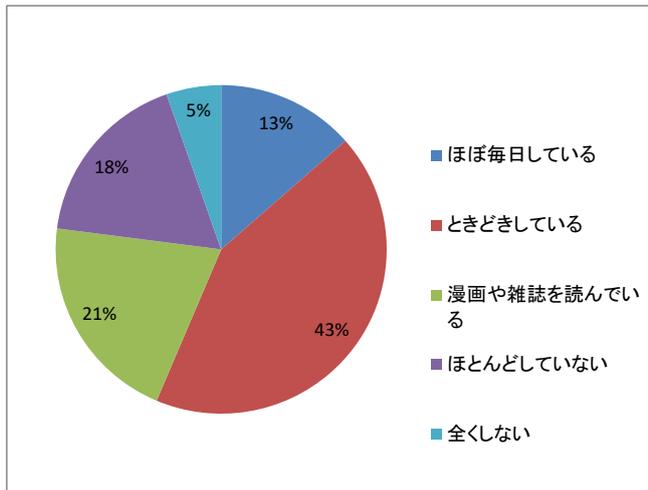
〈考察〉
子どもの本の選書では、「子どもが読みたいと思う本」の回答が35%で多い。次に、「図書館で見て」、「書店で見て」が多く、親子で一緒に図書館や本屋を利用しており、子どもの意思を尊重していることがうかがえる。

問12.読み聞かせをしたことがない理由(問9で「読み聞かせをしたことがない」と回答した者のみ)



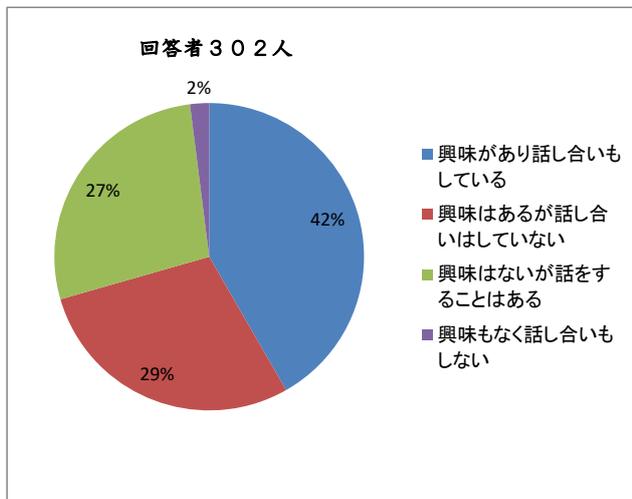
〈考察〉
読み聞かせをしたことがない理由では、「時間がないから」が多く、次に「必要性を感じないから」となっている。

問13.家庭で子どもが自主的に読書をしているかどうか。



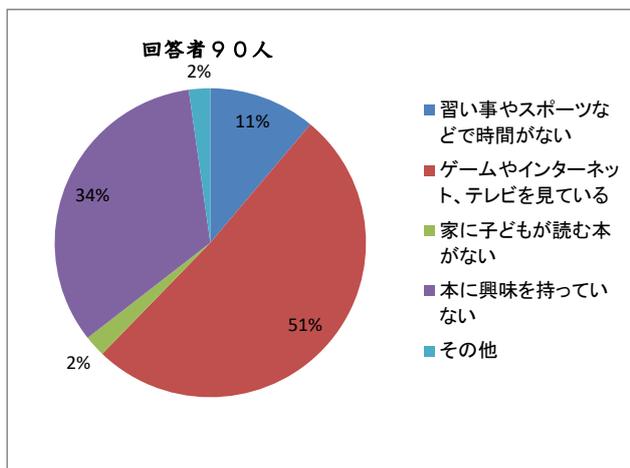
〈考察〉
 家庭での子どもの読書について、「ほぼ毎日している」と「ときどきしている」を合わせると56%であり、親が子どもの読書をしている姿を見ていることが分かる。「漫画や雑誌を読んでいる」「ほとんどしていない」も、全体的に30%近くあり、読書ではなく、漫画や雑誌、ゲームをしている様子が見えてくる。

問14.子どもが読む本に興味を持っているかどうか。(問13で1～3と回答した者のみ)



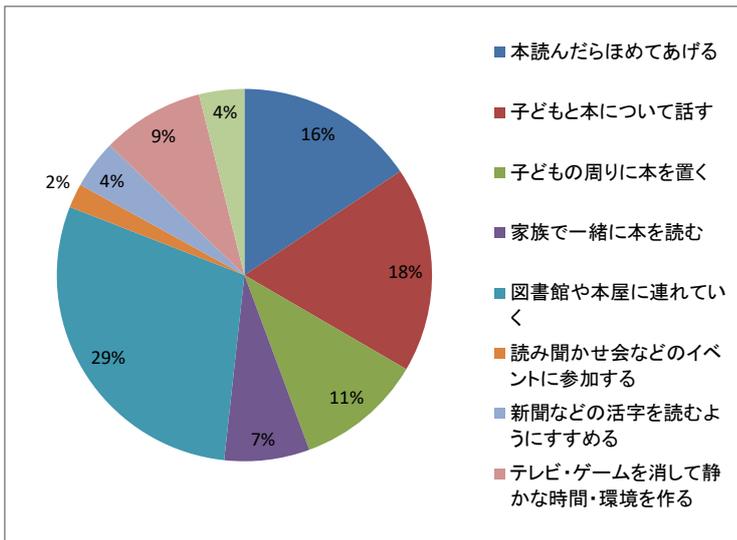
〈考察〉
 子どもが読む本に興味・関心度は、「興味があり話し合っている」が最も高く、「興味があるが話し合っていない」を合わせると71%である。

問15.子どもが本を読まない理由(問13で4～5と回答した者のみ)



〈考察〉
 子どもが本を読まない理由としては、やはり「ゲームやインターネット、テレビを見ている」が51%で多く、現代生活の様子がうかがえる。また、「習い事やスポーツで時間がない」も多く、今の子どもは多忙であることが分かる。一方で、「本に興味を持っていない」が34%あり、この子どもたちへの働きかけが必要である。

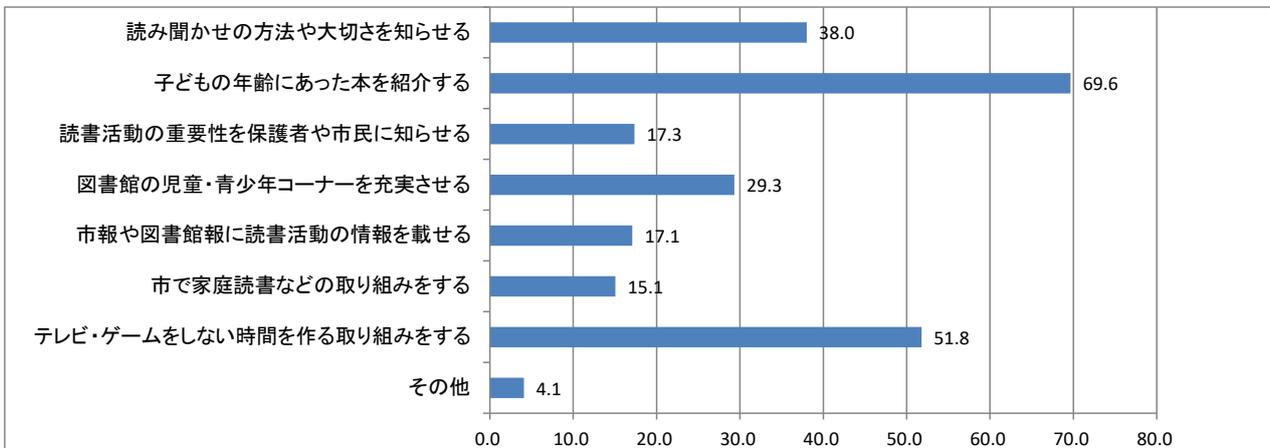
問16. 読み聞かせ以外で、家庭で行っている読書活動推進(複数回答可)



〈考察〉

読み聞かせ以外の読書活動推進では、「図書館や本屋に連れていく」が多く、問11の子どもの選書と連動していると考えられる。次に、「子どもと本について話す」が次に多く、本がある環境へ子どもを置こうとする親の姿勢がうかがえる。

問17. 家庭での読み聞かせや子どもの自主的な読書を増やすにはどのようにしたらよいか。(複数回答可)



〈考察〉

家庭での読み聞かせや子どもの自主的な読書を推進するためには、「子どもの年齢にあった本の紹介」や「図書館の児童・青少年コーナーの充実」があげられており、子どもや親が本を知る機会を欲していることが分かる。「読み聞かせの方法や大切さを知らせる」「テレビ・ゲームをしない時間を作る取り組みをする」も多く、市や学校、図書館がもっと読書に関しての手段や読書活動の重要性の発信をしていく必要がある。